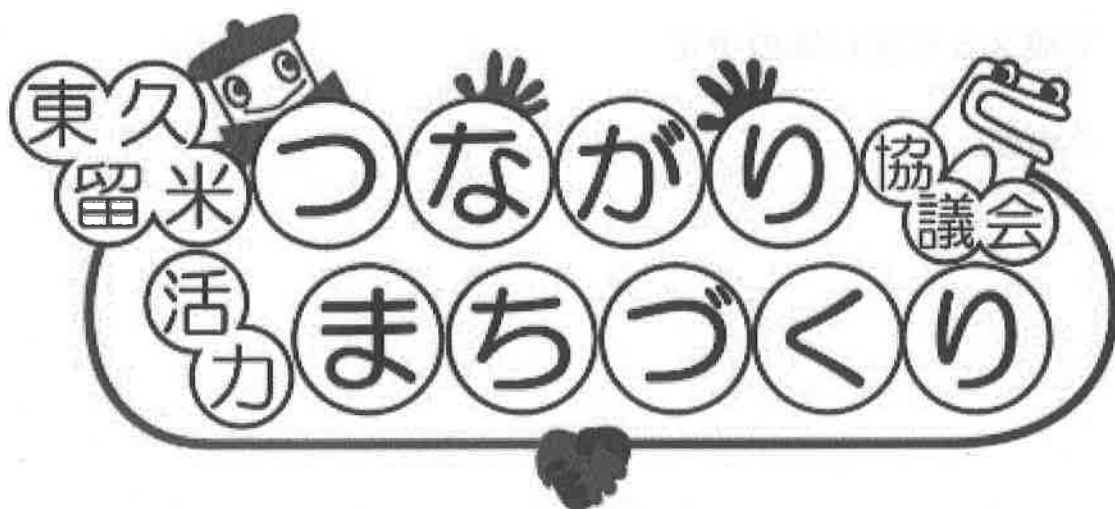


東京都新しい公共支援事業
「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」実績報告書

東久留米つながり・活力まちづくり事業
（東久留米市）



平成 25 年 4 月
東久留米つながり・活力まちづくり協議会

【目次】

- 1 地域の課題
- 2 モデル事業の概要
- 3 マルチステークスホルダーの内容（役割分担等）
- 4 事業実施の詳細な内容
- 5 事業実施上の課題
- 6 モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み
- 7 平成25年度以降の予定
- 8 その他

【資料一覧】

別紙 1-1 東久留米市における地域産業の停滞化

別紙 1-2 東久留米の新しい公共と団塊世代

別紙 2 モデル事業概略

別紙 3-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会規約

別紙 3-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会委員名簿

別紙 3-3 東久留米つながり・活力まちづくり事業推進プロジェクトチーム設置要綱

別紙 4-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会開催状況

別紙 4-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会会議録（第1回～第27回）

別紙 4-3 各部会の活動報告

別紙 4-4 各部会活動で作成したチラシ等

別紙 4-4-1 TOKYOひがしくる麺紹介パンフレット

別紙 4-4-2 マルシェ de くるめ案内チラシ

別紙 4-4-3 ひがしくるめクイズチラシ

別紙 4-4-4 市民の手による市民意向調査 地域活動アンケート報告書・概要版

別紙 4-4-5 「くるくるチャンネル」トップページ

別紙 4-4-6 くるめ de カルタのチラシ、作成したカルタ

別紙 4-5 市民つながり隊募集チラシ

別紙 7-1 拡大協議会次第

別紙 7-2 ツナガリ隊サロン開催チラシ

別紙 8-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会ホームページ

別紙 8-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会 twitter

1 地域の課題

戦後のベビーブームで誕生した世代を住宅公団等の大規模団地の造成によって引き受けてきた東久留米市は、総人口11万6千人のうち団塊世代がおよそ7500人を占める。その団塊世代は60歳定年後の継続雇用がいよいよ終了し、本格的に地域に帰ってくる時期を迎えている。コミュニティに団塊世代が活躍できる場が用意される必要が高まっている。

大規模団地の周辺にも都市農地が豊かに継承され、積極的な営農努力が続けられている。しかし、相続等に伴う農地の売却はやまず、農地は減少し続けている。後継者不在から農家数の減少も歯止めがかからない。東久留米市は豊かな湧水と清流を都市のシンボルに据え、環境省の「平成の名水百選」に都内で唯一選ばれた「落合川と南沢湧水群」に象徴される豊かな自然環境に恵まれているが、雨水の浸透性に優れた農地の減少は湧水と清流の危機にもつながる。農家の市場出荷、庭先販売だけでなく、流通の革新、6次産品開発によって農地の計画的、持続的活用の道を広げる必要がある。安定的な農業経営とともに市民生活から応援される農の営みを創造することも重要な課題である。

商店も同様に、経営的に立ち行かなくなっている。大型店や個性的な商店の出店で在来の商店は消費者から支持されなくなっている。品ぞろえに東久留米の香りを包んだ一品があれば、他の商品との相乗効果をもたせながら消費者の関心を引きつけられよう。農業の一次産品、バラエティに富む加工品や6次産品をならべた販売戦略は、後継者の事業継続意欲を支える一助になる可能性がある。

東久留米市はこれまでも地場ブランドの柳久保小麦や梅を加工した6次産品開発に取り組んできたが、商店からはさらなる商品開発を、農家からは計画栽培につながる多方面からの供給の期待、市民からはさらなる東久留米の香りあふれる商品への期待感がある。地元食品加工業者を巻きこんだ6次産品の開発を拡大する必要がある。

湧水や農家の屋敷林、美しい都市農地などは他都市に誇れる観光資源ともいえる。清流沿いに整備された遊歩道を巡りながら、農家の一次産品、その加工品、それらを扱う商店を利用するというような一連のシナリオは観光戦略として成り立ちうる。そうした戦略をだれが、どう支えるかが課題である。

団塊世代の地域での活躍の場、東久留米のシンボルである農地の保全につながる地域ブランドの開発、市民と市民、市民と団体に有機的な「つながり」をもたせる情報サイトの構築。これら事業をわが街のこととして取り組もうと結成された「市

民つながり隊」の仕組みをいかに運営していくかの課題を置く。

①地域産業の停滞化

②地域コミュニティ活動への参加は少ないが、市民の期待値は高い現状

③団塊世代を中心とする市民が地域活動に参加してきた場合の受け皿として、上記

①、②の現状を踏まえた新たな活動モデルを構築する必要がある。

<資料>

別紙 1-1 東久留米市における地域産業の停滞化

別紙 1-2 東久留米の新しい公共と団塊世代

2 モデル事業の概要

1で指摘した課題を踏まえ、団塊の世代を中心に、市民が地元の農作物等の特産品を生産、加工、販売する過程を担い、地域社会全体が潤い、活力を生み続けるまちづくりの仕組みの構築が期待されている。団塊世代市民が組織化され（＝市民応援団＝市民つながり隊）、事業実施が円滑に進められるために、課題となる情報の受発信力を整備する必要がある。

今回のモデル事業では、東久留米市を代表する産業である“農”。地域資源である農作物を活用した新たな地域ブランドを開発し、地域内外へ発信する仕組みを構築していく過程において、「活動の場」「つながりの場」を創出し、経済的にも自立した持続的発展的組織運営による社会的仕組みのモデルを構築することを目的に実施した。具体的には、

- ①「市民応援団＝市民つながり隊」を組織…団塊世代等の活躍できる場の確保、様々な地域活動を活性化（本事業期間中では主に地域産業の振興に取り組む）
- ②ネットワーク化…広く地域社会の情報を扱う双方向のネットワークの整備
- ③②を支える市民（活動団体）同士のヨコのつながりを担保する組織体の設立
- ④①～③を持続的に維持できる仕組みの構築

<資料>

別紙2 モデル事業概略

3 マルチステークホルダーの内容（役割分担等）

（1）東久留米つながり・活力まちづくり協議会の設置

本事業では、まちづくりの様々な場面で活動している市民活動団体と、地域経済の活性化について取り組みを行っている市・協議会、また学校や企業の専門性を生かしたマルチステークホルダーによる協議体を中心に、団塊の世代の市民を主役に据えて、企画・事業推進・検証評価、そして事業期間中の組織体制の構築（NPO 法人設立）、その後の継続的事業実施へとつなげていくこととした。

東久留米つながり・活力まちづくり協議会の構成は、①中間支援組織の東久留米まちづくりサポートセンター（まちさぼ）、②団塊世代の地域参加支援を行っている東久留米の団塊世代ネットワーク（団塊くるねっと）、③地域情報発信サイト「くるくる」の運営主体である東久留米市コミュニティサイト運営委員会、④本市近在の亜細亜大学、⑤民間コンサルタント会社（プラスワン・ルネ国際研究所、富士通総合研究所）、行政は⑥東久留米市ならびに市が設置する地域産業支援の組織である⑦東久留米市地域産業推進協議会を本事業の推進団体とした（別紙 3-1、3-2）

また、行政は本事業を市事業に位置づけ東久留米つながり・活力まちづくり事業推進プロジェクトチーム（別紙 3-3）を立ち上げ、全庁横断的取り組みを担保した。

（2）部会について

モデル事業期間は、地域ブランドの開発や推進を通じて、持続的発展性のある協議会組織の構築を行い、協議会が将来さまざまな取り組みを行っていくための基盤をつくる時期と位置付けた。そこで、協議会ではこれらを実施するため4つの部会をつくり、事業を進めていった。

協議会の部会と活動内容

①地域ブランド開発部会	②市民への地域活動意識調査部会	③情報システムづくり部会	④仕組みを支える組織づくり部会
地域ブランド商品開発・生産・販売、その支援を行う	団塊世代を中心に地域活動意識調査を実施する	地域情報をトータルする地域情報サービスの構築	協議会組織（つながり隊を含む）の持続性を支えるための組織づくりの検討、実証

*のちに⑤持続的な組織のかたち検討部会を追加

（３）市民つながり隊

協議会の事業は多くの市民の参加や協力を仰ぎながら進めていくとし、協議会では、趣旨に賛同する多くの市民に働きかけ、「市民つながり隊」を結成した。

結成した「市民つながり隊」は、協議会の運営に多角的に参画していただきながら、協議会と連動して活動をすすめた。つながり隊の組織基盤を第４部会に置き、「つながり隊サロン」を継続して実施した。

<資料>

別紙 3-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会規約

別紙 3-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会委員名簿

別紙 3-3 東久留米つながり・活力まちづくり事業推進プロジェクトチーム設置要綱

4 事業実施の詳細な内容

（１）協議会の開催状況

東久留米つながり・活力まちづくり事業の根幹となる協議会については、モデル期間中２７回開催した（別紙４-1、４-2）。

（２）部会活動・つながり隊

①第１部会（地域ブランド開発部会）

平成２４年６月２４日に行われた第１回地域ブランド開発部会で、ワークショップ形式で「地域ブランド」の洗い出しを行い、東久留米において「地域ブランド」として取り組んでいくテーマをカテゴリー分けする中で、「食チーム」「商品チーム」「観光チーム」の３つのチーム分けがなされた。

「食チーム」では数ある候補の中から、東久留米の独自性や今後の発展性などを考慮し、食にまつわるブランド品開発候補として中華麺に絞って開発を進めることになった。当面の開発目標を周辺５市で取り組む「たまろくとご当地グルメフェスティバル IN くるめ」に置いて、進行管理していくことになった。

中華麺は市民つながり隊等でそのネーミングが検討され、ネット投票を経て「TOKYOひがしくる麺」（別紙４-4-1）と命名された。開発は、柳久保小麦の生産農家団体「東久留米市柳久保小麦の会」、市内製麺企業「三河屋製麺」、市内ラーメン店「麺や丸め」、協議会が結成している市民つながり隊、協議会地域ブランド部会（食チーム）が地域のブランド商品化をめざして研究と試食、分析を行い、小麦製粉時に出る「ふすま」を活用することで柳久保小麦独特の風味と食感をみごとに一体化させた中華麺が誕生するに至った。

平成２５年２月１７日「たまろくとご当地グルメフェスティバル IN くるめ」でお披露目がなされたが、ここに至るまでおよそ９カ月間、関係者の並々ならぬ開発努力が実って、当初予定の４５０～５００食を上回る約６００食完売を達成した。同日の１７日から、市内６店舗でもこの麺が食べられるようになっている。これも市民つながり隊を中心に店舗開拓を行ったもの。店舗ごとにそれぞれちがった味が楽しめるのも魅力と考えられる。

各店舗にはTOKYOひがしくる麺の幟（のぼり）とポスター、店内用の麺の解説リーフレット、リーフレットを収納する柳久保小麦の藁を使ったラック、これらもすべて協議会部会メンバー、つながり隊の労作である。

小麦の流通、麺の生産、店舗での製品提供までのシステムが短期間で確立されたのも、関係者の熱意と奔走の表れといえる。課題はさらなる取り扱い店舗の拡大と定着化と捉えている。

「商品チーム」では東久留米をPRする商品の開発提案を行い、平成24年12月2日に開かれた「くらしフェスタくるめ」会場でおこなわれた、東久留米ブランドの小さな実験場としての「マルシェ de くるめ」（別紙4-4-2）には15もの事業者・学校・個人が出店した。

「観光チーム」による地域資源を地図に落としした観光マップの作製、第4部会の「東久留米わくわく巡り」企画とのコラボによる「ご当地クイズラリー」（別紙4-4-3）などにも取り組んだ。平成24年12月1、2日に開かれた「くらしフェスタくるめ」の会場ではマップをお披露目し、「ご当地クイズラリー」には延べ194名が参加した

②第2部会（市民への地域活動意識調査部会）

第2部会では、市民への地域活動意識調査を活動の中心にすえて行った。本調査は、市内在住、市内で活動する団体に属する団塊世代前後を中心とした市民を対象に、平成24年7月から9月にかけて、協議会構成団体の会員等が知り合いのグループや近所の人たち、市民プラザ夏まつりの来場者などへ1,000票を直接配布し、322票を郵送回収したもの。

団塊世代を中心とする市民が、日常生活や生活設計の中で、地域活動への参画についてどのような意識を持っているかを把握し、あわせて「市民つながり隊」への参加意思がある市民の把握を目的とした。

おもな回答内容のあらまは以下の通り（別紙4-4-4）。

「現在何らかの地域活動をしているか」の問いには、「活動している」約6割、「以前はしていたが今はしていない」約1割、「活動していない」約3割。

「活動している」人の活動内容は、「趣味・サークルなど」5割強、「ボランティア活動」46%、「地元の自治会活動」25%。

「以前はしていたが今は行っていない」「活動していない」人にたずねた今後の地域活動参加意向は、「参加してみたい」約1割、「今すぐにはではないが参加してみたい」約4割、「参加したくない」4割強。

「参加してみたい」「今すぐではないが参加してみたい」人の参加したい地域活動は、「趣味・スポーツなど」が約6割、「ボランティア活動」5割超。

「参加したい理由」は、「地域に貢献したい」が半数、「新たなことに取り組みたい」「やりがいを感じたい」「知識・経験・技術を生かしたい」がそれぞれ3割前後。

「地域活動参加で気になること」でもっとも高いのは「どこから始めればよいのか分からない」が4割強、「既存の団体のことが分からない」3分の1、「地域のことをよく知らない」「参加すると抜けられなくなるのが心配」「団体の人間関係が心配」がそれぞれ4分の1強。

「地域活動参加に必要なこと」は「団体の情報」が過半数。以下、「自分の志向と合う活動を見つける機会」「相談窓口」がともに3分の1強、「一緒に活動する仲間」約3割。

「地域情報の入手方法」は「広報ひがしくるめ」約8割強、以下「口コミ」約4割、「市のHP」3分の1、「ちらし」が4分の1。

「東久留米つながり・活力まちづくり協議会」の認知状況は、「知っていた」約1割、「聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」2割強、「知らなかった」3分の2近く。

本協議会の情報希望状況は「訪ねて話を聞きたい」「資料を送ってほしい」がともに1割前後、「とくに知りたいたと思わない」約6割。

「訪ねて話を聞きたい」「資料を送ってほしい」人の「市民つながり隊」参加意向は、「具体的内容を知ってから判断したい」が半数近く、「今は参加できないが、いずれ参加したい」4分の1強。

何らかの参加意向を示した人の希望する専門部会は「情報システムづくり部会」23%、「地域ブランド開発部会」21%、「まだ分からない」77%。

自由回答欄の「東久留米のブランド商品」では、柳久保小麦製品、梅ワイン、清酒ひがしくるめ、野菜の認知度が高く、「東久留米の地域資源」では、湧水、河川、小麦、緑、農産物を挙げる市民が多く、「ブランドとして開発するとよいもの」では湧水を利用した飲料水、湧水を利用した観光スポット、野菜・果物等の農産物が挙げられた。

「東久留米の地域課題」に挙げたのは「自治会組織率の低さや近所との関わりが薄い」といったコミュニティ問題、「ひとり暮らし高齢者の増加、若い世代が少ない」といった高齢化問題、「あそばせる場所が少ない、保育、学童が不足」といった子育て環境の問題など。

「東久留米が魅力的になるには」では、「近所・地域のつながりが持てる催し」や「世代間交流が図れるイベント」、「落合川・黒目川の自然保護の必要性」、「全国に向けた情報発信」といった声が寄せられた。

これらの調査結果は、回答者への配布やひろく公共施設への配備を行い、市民との共有を図っている。市民の地域活動に対する意識がどのようなものか、調査の結果は協議会での各活動を進める上で参考にしたばかりでなく、各種団体の運営や行政運営にも生かしてもらいたい。平成25年度以降の協議会組織が持続的に運営されるかの点においても、本調査結果は貴重な示唆を与えてくれるものと思われる。

③第3部会（情報システムづくり部会）

コミュニティ情報や物産・観光まで、人と人、人と団体、人と地域資源を結び、つなげる役割を果たせるよう、地域のホットな情報を送受信し、トータルに展開する東久留米のポータルサイトの構築を目指した。

グローバルナビゲーションには、市民誰もが興味を引く分かりやすいカテゴリ分けを行い、くるくる写真館、くるくる便利帳、ひがしくるめ名産・観光BOXとし、加えて各団体の紹介並びに活動報告を行う団体マイページは個別ブログタイプを採用し、タイムリーかつ簡単に活動紹介・イベント情報等の作成、写真の貼りつけが可能になり、サイトを見ている人からの反応が分かるコメント機能も追加した。

これまでに増して、人と人、人と団体、人と地域資源を結び、つなげる機能の充実を図った。サイトは3月31日に構築作業を終え、「くるくるチャンネル」（別紙4-4-5）として4月1日にオープンした。

以上のサイトの立ち上げの一方、情報発信の一環として、平成24年7月31日に協議会HP、ツイッター、フェイスブックを立ち上げ、各部会の活動、イベントの告知やレポート等の運用を行っている（8に後述）。

今後の「くるくるチャンネル」の充実においては、市内情報の発信を中心に市民つながり隊をはじめとした市民の協力が不可欠と考えられる。

④第4部会（参加の仕組み・組織づくり部会）

市民つながり隊とは、「東久留米を、いっそう住みやすく魅力あるまちにするために、さまざまな地域の課題解決に向けて、市民同士がつながり、話し合い、行動する」という協議会の趣旨に賛同し、自らが発意し、自主的に参画・活動していく協議会事業の担い手である。

その活動範囲は、第1部会の食・商品・観光各チームへの参加、第2部会の意識調査の調査票配布、分析・活用検討、第3部会の新情報サイト構築に際しての情報提供、データインプット、第4部会の後述する「市民つながり隊わくわく講座」から誕生した各プロジェクトであるご勝手広場、コミュニティカフェ等への参加・サポートなど。協議会諸活動の全般にわたってその担い手となった。

市民つながり隊を編成するに当たって、6月から「市民つながり隊わくわく講座」を4回にわたって実施した。わくわく講座はひとりひとりのまちづくりへの思いを引き出し、地域資源を生かした地域ブランド企画づくりを学ぶワークショップである。さまざま交わされた議論と企画提案は市民プラザ夏まつりで展示発表された。その場を利用して市民との交流が図られた。

8月には「わくわく戦略会議」を開催。7つの地域ブランド企画提案のうち、東久留米わくわく巡り（のちに「くらしフェスタくるめ」の観光マップに集約）、ご勝手広場（のちに「くらしフェスタくるめ」での“プチマルシェ de くるめ”で実現）、コミュニティカフェがプロジェクト化。わくわく巡りは第1部会の観光チームに移行したが、その他のプロジェクトを第4部会がサポートした。

わくわく講座以降、各部会の活動報告を含めた市民つながり隊オリエンテーションを実施し、市民つながり隊の活動報告も含めたネットワーク会議、つながり隊サロン（当初毎週水曜で開催していたものを第1・第3金曜日へ変更）なども随時開催した。登録者およそ50人、持続的活動者およそ25人。

「コミュニティカフェ」は市民が集い、出会える、縁側のように自由に立ち寄れる場所をイメージしてサロン風の間を用意したもの。市役所1F屋内ひろばを会場に、東久留米ならではのモノ、人との出会い、つながりが生まれる場所を目指した。都合2回（12/22、1/27）開催し、延べ20人の参加を得て、自由に懇談し、つながりの演出を目指したもの。

「かるた de くるめ」（別紙4-4-6）は平成25年3月10日、協議会が24年度活動として「地域ブランドづくり」をテーマに掲げ、市民とともに「東久留米の良いところ・魅力」などの発見、そして柳久保小麦を活用した「TOKYOひがしくる麺」を開発しながら出会いとつながりの場を生み出してきた、その総決算の場。「これぞ東久留米！」と自慢の東久留米をかるたにして、分かち合った。

これら一連の事業推進にあたって、つながり隊はスタッフとして主要な一翼を担うまでのつながりが生まれた。意識調査にあったように、地域活動参加のきっかけ

が協議会によって提供され、おなじ思いの多くの人たちが出会い、行動をともにすることによって、誇りと愛着のもてるまちづくりに一役買ったといえる。

⑤第5部会（持続的な組織のかたち検討部会）

モデル事業を担う協議会の事業期間が平成24年度末であることから、どのように継続して事業を担うか、その組織づくりはどうあったらよいのかは、モデル事業開始当初からの重要課題であった。

本来、この組織づくりについては第4部会を中心として協議会全体で行う方向性であったが、わくわく講座開催以降、各プロジェクトが動き出し、組織づくりについて既存の部会活動に限定されない広い視点での検討が必要との考えから、平成24年10月、新たに「第5部会」を立ち上げ、モデル事業補助期間が終了する平成24年度末に向けて、新しい公共創出で採用された複数セクターが協働するマルチステークホルダー手法の検証を含めて、**新組織のあり方を検討**してきた。

第5部会では、これまでのブランド開発を通じたまちの活性化、市民相互のつながり創出、複数セクターによる事業推進といった新公共コンセプトを踏まえたNPO法人設立趣意書を部会として用意し、協議会に報告した。新組織への移行案として、協同労働組織の検討も提案された。

前述の複数セクターによる協働の組織運営に加え、つながり隊を主体とした組織による運営の可能性を探った。

平成25年2月28日の第5部会では、市民つながり隊をコアとしての新組織の設立は現時点では時期尚早であり、現実的ではないとの結論。市民つながり隊は各部会に連動して実作業等に従事してきた経過から、新組織のコーディネートを即刻4月から担うことは困難との見解で一致した。

持続的な組織のかたちを構想するのに必要なことは、市民つながり隊に対して本協議会活動一年余の全体像を説明し、その一翼を担ってもらったことに対する御礼、そして引き続いて4月以降、新公共の事業の継続をともに支えてもらいたいこと、これら一連の説明をする機会を年度末に持つことを確認した。これが、新しい公共モデル事業に際して協議会が市民のみならず、企業、教育機関、店舗などに呼びかけてつくった市民つながり隊に対する責任の果たし方との認識であった。

<資料>

別紙 4-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会開催状況

別紙 4-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会会議録（第1回～第27回）

別紙 4-3 各部会の活動報告（資料各部会の報告活動報告の部分）

別紙 4-4 各部会活動で作成したチラシ等

別紙 4-4-1 TOKYOひがしくる麺紹介パンフレット

別紙 4-4-2 マルシェ de くるめ案内チラシ

別紙 4-4-3 ひがしくるめクイズチラシ

別紙 4-4-4 市民の手による市民意向調査 地域活動アンケート報告書・概要版

別紙 4-4-5 「くるくるチャンネル」トップページ

別紙 4-4-6 くるめ de カルタのチラシ、作成したカルタ

別紙 4-5 市民つながり隊通信

5 事業実施上の課題

各部会での事業実施を通じて当初目標に掲げた多くの市民の参加という点では以下の課題が浮かび上がった。

- ・部会の活動を通して関わりは多くできたが、目標の参加人数には至らなかった。
- ・ブランドアイデアなどは、当初目標には至らなかった。
- ・事業の成果の維持のために、今後は、さらなる参加が必要である。

協議会を主軸に置いて各部会が統一的な目標に向かって活動し、今後の持続的な組織のあり方を並行して検討するという事業推進の構図を描いてモデル事業の遂行に努めたが、課題として認識できるのは、事業推進の貴重な役割を担った「市民つながり隊」が個人参加のかたちをとり、事業に対しては部分的な関わりにとどまったことから、事業全体の基本的な目標や趣旨の徹底が必ずしも浸透できなかった点である。

モデル事業終了前の3月30日に開催した拡大協議会において、これまでの振り返りとともに、改めて今後に向けての基本的な方向の確認を行い、市民つながり隊参加者からも想いを共有する発言が続いたのは、東久留米を楽しく、元気にしたいとの強い気持ちがあったことの証左と言えよう。



かるた de くるめの様子

6 モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

（1）地域課題に基づく、マルチステークホルダーの連携

今回のモデル事業では、地域課題の解決線上に、関係する主体を選択し、協議会という連携を指向していく手法をとった。この手法は、課題に対して対等な立場で協議するという点で、まず各ステークホルダの相互理解からスタートしなければならず、合意形成、相互理解に多くの時間と労力を割くこととなった。そこに時間と労力を割くプロセスを経た結果、地域の団体同士の連携と絆を生むことにつながった。協議会自体は解散となったが、マルチステークホルダープロセスを地で行くようなこれらの取り組みの難しさは、他の地域でもモデルになりうるものと考えている。

（2）個がつながる「市民つながり隊」という参加の仕組み

団塊世代を中心とする市民の主体的な力（＝市民が主役）を地域社会活性化の応援団（＝市民つながり隊）として自らが地域課題を解決する一役を担うプログラムを実施した点をアピールしたい。これらの仕組みは、結果的に地域経済の循環と中高年齢者の社会参画を促す仕掛けとなり、全国各地の同様な課題を抱える地域へのモデルとなりうるものと考えている。

7 平成25年度以降の予定

（1）協議会の解散

協議会では、様々な地域主体との連携ができ、つながり隊などの思いがつながり、一定の成果を上げることができたと評価する。今後は、モデル事業の経験を生かし、協議会各構成団体の活動にこれらのつながりを生かして進んでいく予定として、協議会自体は、3月末日でモデル事業終了と共に解散することとした。

（2）拡大協議会の実施

協議会のこれらの意向を市民つながり隊のみなさんに説明し、双方で今後について意見交換を行う拡大協議会を、モデル事業終盤となる3月30日に実施した。

（3）つながり隊サロンの実施に向けて

拡大協議会では、協議会から、①モデル事業実施にあたって、市民つながり隊のみなさんには、様々な活躍をしていただいた謝意、協議会は解散する旨を報告した。②協議会の構成団体では、今後もモデル事業が縁でできたつながり隊とのかかわりを持ち続けたいと考えている。③今後つながり隊のように、地域の活動に参加していく人たちをつないでサポートしていくことを提案した。

具体的提案として、東久留米まちづくりサポートセンターを主体として、つながり隊やこれからまちづくりにかかわりたい市民の交流や活動のプラットフォームとなる「つながり隊サロン（＝ツナサロ）」を定期開催する予定とした。

ツナサロでは市民つながり隊として活躍していた人や、これからつながりを求めて入ってくる人、協議会構成団体など多くの人や団体がつながるきっかけをつくる場を提供することとした。

サロンの場では、協議会構成団体が個別につながり隊と連携を図っていく予定。また、つながり隊も各構成団体との連携をしていきたいとの考えも示された。

<資料>

別紙 7-1 拡大協議会次第

別紙 7-2 ツナガリ隊サロン開催チラシ

8 その他（協議会からの情報発信について）

その他、本事業に関する協議会の取り組みについては、第3部会を中心としてホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを活用して積極的な情報発信をおこなった。

<資料>

別紙 8-1 東久留米つながり・活力まちづくり協議会ホームページ

別紙 8-2 東久留米つながり・活力まちづくり協議会 twitter



東久留米つながり・活力まちづくり協議会

- ホーム
- 協議会について
- 活動紹介
- 市民つながり隊
- 情報・ニュース
- お問い合わせ
- 活動日程

「東久留米つながり・活力まちづくり協議会」とは？



東久留米つながり・活力まちづくり協議会事務局
 【住所】東久留米市本町3-3-1 市役所7階
 【開館時間】月曜日～金曜日（土日祝休）
 午前10時～午後4時
 【電話】080-4836-4411
 【お問い合わせ】[メールフォームはこちら](#)



東久留米つながり・活力まちづくり協議会は、東久留米を、いっそう住みやすく魅力あるまちにするために、市民同士がつながり、話し合い、行動することを目的として、市民活動団体、大学、企業、行政が連携して、平成24年1月に設立しました。

東久留米のさまざまな地域の課題解決に向けて、自らが発意し、参画活動できる場を市民の皆様と共に創造していきます。

なお、今年度事業については、「東京都新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業」の助成を受けて実施しています。
 ※詳しくは、[協議会について](#)をご覧ください。

PR



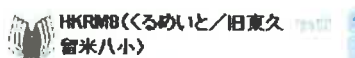
東久留米市民が企画・開発、特産「柳久保小麦」を使用し、市内製麺業者が製造する新地域ブランド商品「**TOKYOひがしくるめ**」発売！

第1回 地域ブランドゲーム大会
かるた de くるめ
 平成25年**3月10日(日)** **申込は**
午後1時30分～ 成美会館 **こちら**

【終了しました】ご参加ありがとうございました！

Twitter

ツイート [@hik_tunegari](#)さんをフォロー



おはようございます。5月末の土曜に六仙公園でピクニックします。当日みかけたら適当に参加してください。「できるだけ地元のものをつかったもの」でポットラック(持ち寄り)形式にしたいのですが、強制ではありません。なくてもいいし、シェアしなくてもいいです。詳細は後日 #higakuru

東久留米つながり・活力まちづくり協議会

【重要なお知らせ】平成25年4月1日以降の連絡先等について

東久留米つながり・まちづくり協議会は「東京都新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業」が終了になる平成25年3月31日をもって活動を終了いたします。それに伴い、事務局の連絡先の変更などがございます。

★情報更新しました！「ツナサロメールのご案内」(平成25年3月31日)

情報・ニュース

ツナがり隊サロン(ツナサロ)4/13開催！&ツナサロメールのご案内

★まちづくりサポートセンターからのお知らせです★

まちづくりサポートセンター(第4部会:仕組みを支える組織づくり部会)では、「つながり隊」やこれからまちづくりに興味があるみなさんが自由に集い、市民同士の横のつながりを提供するツナがり隊サロン(ツナサロ)を開催いたします。
 つながり隊のみなさんやまちづくりに興味のある方、ぜひご参加ください。
 お申し込みは不要です。直接会場にいらしてください。

【開催概要】

日時：平成25年4月13日(土) 午前10時～12時
 開場：東部地域センター 会議室1・2
 ★申し込み不要(直接会場へどうぞ)

■口ツナサロメールにご登録を口■

メールアドレスをご登録ください。
 このサロンの開催情報などをお知らせするメールをお送りします。
 お問い合わせは[こちら](mailto:hk.machisapo@yahoo.co.jp)→ hk.machisapo@yahoo.co.jp

ツナサロに関するお問い合わせ

- 東久留米まちづくりサポートセンター hk.machisapo@yahoo.co.jp
- 東久留米市市民部生活文化課市民協働係 042-470-7738

[続きを読む](#) [コメント](#)



ツイート

- フォロー
- フォローワー
- お気に入り
- リスト



すべての画像と動画を表示

おすすめユーザー · 更新 · すべて見る

- よこなま (菅色の箱)** @ykonama
野島たけお / 他のユーザーをフォロー
- 飯山温泉 元湯旅館【厚木市】** @socialenergycare
他のユーザーをフォロー
- 山本廣之** @hirokunotekusu
鈴木廣夫 / 他のユーザーをフォロー

カテゴリ別に見る 友だちを見つける

トレンド 変更する

- 緊急災害
- 初受験
- ダブルブッキング
- 浦和学院
- フィギュアーツ
- #Amazon
- YUI
- 忍之一人
- NEWS
- Android

© 2017 Yahoo! JAPAN株式会社. 利用規約 | 広告掲載 | 著作権 | お問い合わせ

東久留米つながり・活力まちづくり協議会
@nk_tunagari
東久留米の魅力をも市民目線で話せる! 引越しのプロフェッショナル「日々暮らし」が生まれるまち東久留米をいっしょに盛り上げたい人が集まる場所!
東京都東久留米市 | <http://www.higashikurumetsunagari.com/>

1,365 フォロワー | 473 ツイート | 319 いいね

ツイート

- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月19日
【重要なお知らせ】東久留米つながり・活力まちづくり協議会<平成25年4月1日以降の連絡先等について>4/20停止:携帯、6/20(停止:HP、SNS、メール、TOKYOひがしぐる種のお問い合わせ先等、詳細はこちら)
→<http://higashikurume-tsunagari.com/2013/03/22/%E2%99%A9>
#higakuru
- rurume** @rurume 4月18日
イオン東久留米で植樹祭 | タウン通信 town-t.com/article.php?file... @towntsushinさんから #higakuru #東久留米
東久留米つながり・活力まちづくり協議会公式ブログ
- 榮堂はるひだった人** @haruhitadango 4月18日
「技術を安く買収しようとする業者」そのものよりも「技術や課程にお金がかかるのを理解してない一般市民」が一番の敵。「ソバの原価は20円くらいなのにあのソバ屋は500円もってあくどくもうける」みたいなのを喰いたがるタイプね。じゃあお前20円やるからソバ作ってくれよ。
東久留米つながり・活力まちづくり協議会公式ブログ
- 木下斉/HitoshiKinoshita** @hitoshiokinoshita 4月16日
まちづくりを人任せにしているませんか。自分でやっても失敗したら「行政のせい」にしているませんか。僕はやるからには覚悟を決めて、徹底的にやらないといけません。それが唯一まちを守る方法。「まちを変えろ、10の覚悟」(No.975) blog.revitalization.jp/?id=618826
東久留米つながり・活力まちづくり協議会公式ブログ
- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月15日
報告会終了しました！皆様ありがとうございました。今後についてもツイッターで引き続き配信させていただきますので、宜しくお願いいたします。また新しい出会いを！ #higakuru
- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月14日
【第2部】閉会のご挨拶です。4/13のツナサロキックオフ会で今後について話し合いました。ありがとうございます。 #higakuru #nk_houhoku330
- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月14日
【第2部】TOKYOひがしぐる種事業を通して、みなさんがつながっていくことを願っています。つながり隊のみなさん全員でつくった種として、一緒にもりあげていきましょう。 #higakuru #nk_houhoku330
- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月13日
【第2部】TOKYOひがしぐる種今後についての報告です。地域ブランドとして市民の皆さんと育てられるよう進めていきます(詳細は協議会HPで改めて報告します!) #higakuru #nk_houhoku330
- 東久留米つながり・活力まちづくり協議会** @nk_tunagari 4月12日
【第2部】感想:補助金がでたこの期間は、4月以降の準備期間だと思おうつながり隊の皆さんと絆切れてはいけません。楽しくない?参加しない?

